

平成22年度石川県防災総合訓練について

今回の平成22年度石川県防災総合訓練において、われわれ ε-ARKプロジェクト（代表：大野浩之 金沢大学総合メディア基盤センター教授）は、公開実験「ε-ARKデバイスとtwitterを活用した非常時情報通信システムの外国人向けの検証」を実施します。

今回の公開実験では、大地震のような大規模自然災害等が突然発生し、日本語を十分に理解できない外国からの来訪者の方々（以下、外国人と記します）が被災地において孤立した場合を想定します。このような状況では、外国人の方々は、日本語が理解できないために十分な行動ができず、大変な不安にみまわれると予想されますが、被災直後の混乱期にあつては、日本語でさえ十分な情報が流通しないことが予想され、仮に流通したとしても、それを直ちに複数の外国語（たとえば、英語、中国語、韓国語等）に迅速に翻訳して提供することは、これまではあまり容易ではありませんでした。

しかし、われわれ ε-ARKプロジェクトは、被災直後の電源や通信が不安定な状況であっても、被災地からインターネットへの接続をなんとか維持する手段（ε-ARK/AP）の開発に目処をつけたので、今回、比較的少ないトラフィックでメッセージ交換が可能なtwitter（ツイッター）を活用することを考えました。被災地で飛び交うであろう日本語の情報を被災地の誰かがツイッターでつぶやいた時、それをツイッター上の別の誰かが外国語に翻訳して再度つぶやけば、それだけでも被災地の外国人の方々はとても助かると考えます。

実験のしくみは簡単です。

- (1) まず、ε-ARKデバイスを用い、「被災地」（実際には、公開実験会場周辺の地域を仮想的な被災地とする）からインターネットへの通信を確保し、外国人被災者の周辺に、無料のネットワークアクセスポイント（フリースポット）を出現させます。（もちろん、被災にも関わらず通常の通信が安定的に可能であれば、通常の方法を用いてインターネット接続するのがよいでしょう）
- (2) 被災地内外で発信されるさまざまな情報を、被災地内外の人々がツイッターで「つぶやき」ます。この時点では「つぶやき」は日本語でかまいません。
- (3) この日本語の「つぶやき」を見たインターネット上の人々のうち、その「つぶやき」を「自分が得意とする言語に翻訳してもよい」と思った人が、ボランティアの翻訳者となって再度つぶやきます。

こうすることで、多少の時間差はあつても、被災地の外国人の方々は、自分の国の言葉に翻訳された情報をインターネットから得ることができます。

この実験には、(a)誰がつぶやくのか、(b)誰がつぶやいたことをどうやってボランティア翻訳者が知るのか、(c)翻訳された情報が発せられたことをどうやって外国人被災者が知るのか、という問題があります。これを解決するのがツイッターで用いられている「ハッシュタグ」という簡単なしくみです。

1. まず、(a)は、今回の実験においては、現地にε-ARKプロジェクトのメンバを派遣して日本語でつぶやかせることで対応します。この時、ハッシュタグとして #nakanoto05sep を用いてください。
2. 次に (b) ですが、ハッシュタグ #nakanoto05sep に注目していただければ気づけるはずです。
3. 最後に (c) ですが、全ての「つぶやき」を翻訳する必要はありません。対応可能なつぶやきのみ翻訳してつぶやいてください。この時も、ハッシュタグ #nakanoto05sep を忘れずにつけてください。これで、被災地の外国人方々は翻訳された「つぶやき」に気づけるでしょう。

なお、「つぶやき」が大量に流れる場合には、英語のみ、中国語のみというように、特定の言語の「つぶやき」みを取り出せるように、#nakanoto05sep_EN, #nakanoto05sep_CN のように、あらかじめ決めたハッシュタグ（今回の場合なら #nakanoto05sep）の末尾に言語を示す文字列（_EN, _CN 等）を付記することを考えていますが、今回は初回であり、それほど大量の「つぶやき」は流れないと思うので #nakanoto05sep に統一することにしました。

本公開実験の初期のご案内をお読みの方へ：当初は、言語を示すサフィックスを使うと
アナウンスしていましたが、とりやめて #nakanoto05sep に統一することにしました。

公開実験では、日本語から外国語への翻訳を行います。余裕があれば、逆方向すなわち「被災地の外国人の方々が自分の国の言葉（日本人から見たら外国語）で発信したつぶやきをインターネット上のボランティア翻訳者の方々が日本語につぶやき直し、ε-ARKプロジェクトメンバがこれを受け取る」という実験も行いたいと思います。

今回の公開実験は、そのしくみはとても簡単ですが、被災地において日本語を十分理解できない外国人の方々を支援する強力な環境となり、今後の応用や展開も十分期待できると考えています。

2010年 9月 1日
金沢大学総合メディア基盤センター
大野 浩之 (hohno@chnolab.org)

以上.